

ただ主に仕えよ

マタイ 4 : 1 - 11



司祭 ヨハネ 井田 泉

2020年3月1日

大齋節第1主日

奈良基督教会にて

今日は大齋節第1主日。今日からイースターに向かって、わたしたちは6週間の信仰の旅を始めます。その旅は、必ずしも楽しい旅ではありません。むしろかつて遠い昔、信仰の先祖たちイスラエルの人々がエジプトを脱出したあと、40年の間荒野の旅をしたように、わたしたちもある意味で荒野の旅をするのです。

ちょうど主の民イスラエルが荒野の旅路で、飢え、渇き、病気、不安、葛藤、恐怖を経験したように、わたしたちもそのような経験をするかもしれません。いや、今わたしたちは現に不安の中にいます。新型コロナウイルスの感染がいつ起こるか、だれに起こるか、さらに広まるのか、いつ終息するのか、わかりません。

しかし不安や恐怖に圧倒されてはいけない。何が起ころうと、わたしたちには神さまがおられます。さらに荒野の恐ろしい試練を経験された主イエスが共におられます。それをしっかりと心にとどめつつ、復活の主に出会う日を目指して進んで行くのがわたしたちです。

今日朗読した福音書は、主イエスが経験されたサタンの誘惑を伝えていました。40日間、主イエスは荒野で断食して心も身体も弱り切ったとき、サタンの誘惑にさらされました。弱り果てたとき、ただひとりで、そして無防備で誘惑にさらされたの

です。

今日まず第1に心にとめたいことは、わたしたちの主であり救い主である方が、ほんとうに恐ろしい危機を経験されたのだ、ということです。身体も心も衰弱しきっている。神はまるでおられないかのように沈黙しておられ、誘惑する者の声だけが聞こえるのです。イエスは悩み、惑い、極度に苦しめられた。これからの生涯を神さまにささげよう、神と人に仕えて、真実の道を示そうとされているときに、その道が見えなくなり、絶望と破滅の淵に立たされました。

第2に心にとめたいことは、誘惑する者は現実に存在し、力をもって働きかける、ということです。しかもいかにも悪者らしくサタンらしく姿を現して誘惑するのではなく、正体を隠して非常に巧妙に忍び寄ってくる。良い道、正しい道がほんとうにここにあるかのように、背後からささやき、その道へと引きずり込もうとします。これがイエスを襲いました。

これを聖書は悪魔と呼び、サタンと呼ぶのですが、その誘惑にさらされない人はひとりもいません。気づかないうちにいつの間にか神さまの道から離れ去ることがあり、反対に、魂が激しく苦しむうめいて救いを求めるのに、何も助けが得られない、ということがあります。

今日の聖書の終わりのほうを読んでみましょう。

「更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、『もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう』と言った。」

マタイ 4:8-9

神さまの道からイエスを逸脱させること。それがサタンの目的です。この第3の誘惑では、サタンは神ではなく^{おのれ}己を、サタンを拝むように、そそのかすのです。

ここはすでにサタンの策動を見破った立場から書いてありますが、実際はそのように露骨に言うのではなく、いつのまにか神さまから人を離れさせ、別のものを拝むように導くのです。お金、地位、役職、名誉、評判、組織の中の自分の力……そういうものが中心になっていつのまにか神にとって代わってしまう。

しかし今日心にとめたい第3のことは、イエスがその誘惑を見破り、それを退けられたことです。

「すると、イエスは言われた。『退け、サタン。』

“あなたの神である主を拝み、
ただ主に仕えよ”

と書いてある。』」 4:10

「書いてある」というのは聖書にこう書いてある、ということです。イエスは、聖書の言葉（申命記）によって誘惑を退けられたのです。

三つのことを申しました。

第1に、イエスは誘惑にさらされて苦しめられた。第2に、誘惑する者、サタンは現実存在し巧妙に、しかし大きな力をもって働きかけ、人を危機に陥れる。イエスは苦しめられました。しかし第3に、イエスは聖書の言葉によってそれを見破り、誘惑者サタンを退けられました。

ここで荒野の40日がただ無事に終わったというのではありません。最初からはっきりしていたことが、誘惑とその克服によって以前よりはるかに明確にされた、というのが重要です。この誘惑とその克服を通して、イエスはご自分の使命をあらためて完全に明確に把握された。それはサタンに向けて言われた言葉にこめられています。

「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」 3:10

主イエスの存在と働きの中心であるこのことが、はっきりしました。主を礼拝し、主に仕える。この姿勢、この使命がイエスのうちで確固としたものとなりました。それは誘惑、試練をとおしてでした。

主イエスはこの荒野の誘惑と試練をとおして、わたしたちのために道を開き、わたしたちの先導者（導き手）となってくれました。わたしたちの道——それはイエスと同じく、主を礼拝し、主に仕えるという道です。

わたしたちが誘惑にさらされ、試練に遭うとき、不安や悩みに呑み込まれそうなとき、そこに主イエスがおられます。みずから試練を受けられたイエスが、わたしたちを守り、確かな道へ伴ってくださいます。

祈ります

神さま、わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。わたしたちが試みを受けるとき、わたしたちに先だつて試みられて苦しみ、勝利された主イエスが、わたしたちを支え助けてくださいますように。そして試みをとおして、わたしたちがしっかりと、あなたを礼拝しあなたに仕える者となるようにしてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

（今日は、聖公会生野センターの働きをおぼえて祈る主日です。今日3月1日は、日本が植民地支配によって朝鮮・韓国の人々を苦しめていた時代、1919年に朝鮮に大規模な独立運動が起こりました。その中心のひとつになったのがキリスト教会でした。教会は虐げられた人々の心の拠り所でした。日本聖公会はその独立運動が起こった3月1日に近い主日を聖公会生野センターのために祈る日と定めています。聖公会生野センターは日韓在日をはじめとしてさまざまな人々が共に生きていける社会を目指して大切な働きをしています。本日の信施はそのためにおささげします。）